

医療分野研究成果展開事業について

平成27年3月

文部科学省

概要

- 大学等と企業との連携を通じて、**大学等の研究成果の実用化を促進**し、イノベーションの創出を目指す
- 特定企業と特定大学(研究者)による知的財産を活用した研究開発、複数の大学等研究者と産業界によるプラットフォームを活用した研究開発を支援
- 民間リソースを積極的に活用する枠組みを取り入れつつ、迅速かつ効果的な実用化を促進する仕組みを導入

新規課題あり

先端計測分析技術・機器開発プログラム

共通的な研究開発基盤を構築するための
世界最先端の独創的な研究開発

新しいサイエンスの潮流を創出するオンリーワン・ナンバーワンの革新的な計測分析技術・機器・システムを持続的に生み出すため、最先端の計測分析技術・機器・システムの開発を支援



(例)イメージング質量顕微鏡

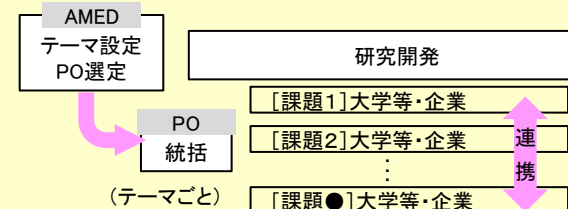


(例)生体計測用超高速フーリエ光レーダー顕微鏡

産学連携医療イノベーション創出推進プログラム

産学の連携により医療分野における技術課題を解決し、
事業創出を図る

日本医療研究開発機構(AMED)／文部科学省が戦略的にテーマを設定し、当該テーマのもと、産学連携で構成される複数の研究開発チーム選定し、医療イノベーション創出に向けて、一体的に研究開発・事業化を推進



継続課題のみ

研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)

大学等の知的財産を活用した産学による共同研究開発課題や研究開発の特性に応じた最適なファンディングを設定し、総合的かつシームレスに支援



(例)良好な耐摩耗性を持つ人工股関節の開発

戦略的イノベーション創出推進プログラム(S-イノベ)

基礎研究の成果を基に、大規模かつ長期的な研究開発JST戦略的創造研究推進事業等の成果について、産学連携で構成される複数研究開発チームにより、イノベーション創出に向けて長期一貫した研究開発を推進

<研究開発テーマ>
「革新的医療を実現するための
バイオ機能材料の創製」

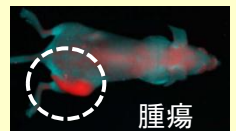


(例)再生型小口径人工血管の開発

産学共創基礎基盤研究プログラム(産学共創)

産業界に共通する技術的課題の解決に
資する基盤研究

産学の意見交換の場「産学共創の場」を構築し、産業界に共通する技術的課題の解決に資する大学等の基盤的な研究を推進



<技術テーマ> (例)低酸素状態にあるがん腫瘍のイメージング
「ヒト生体イメージングを目指した
革新的バイオフォトニクス技術の構築」

【参考】科学技術振興機構の概要

■機構の目的

科学技術基本計画（平成23年8月19日閣議決定）の実施において中核的な役割を担う機関として、わが国のイノベーション創出の源泉となる知識の創出から研究成果の社会・国民への還元までを総合的に推進するとともに、その基盤となる科学技術情報の提供・基盤整備や次世代人材の育成・支援等、科学技術コミュニケーション活動等を推進する。

■設立年月日：平成15年10月1日

■理事長：中村 道治

■役員数：理事長1名、理事4名、監事2名（うち非常勤1名）

■常勤職員数：1,247名（平成26年4月1日時点）

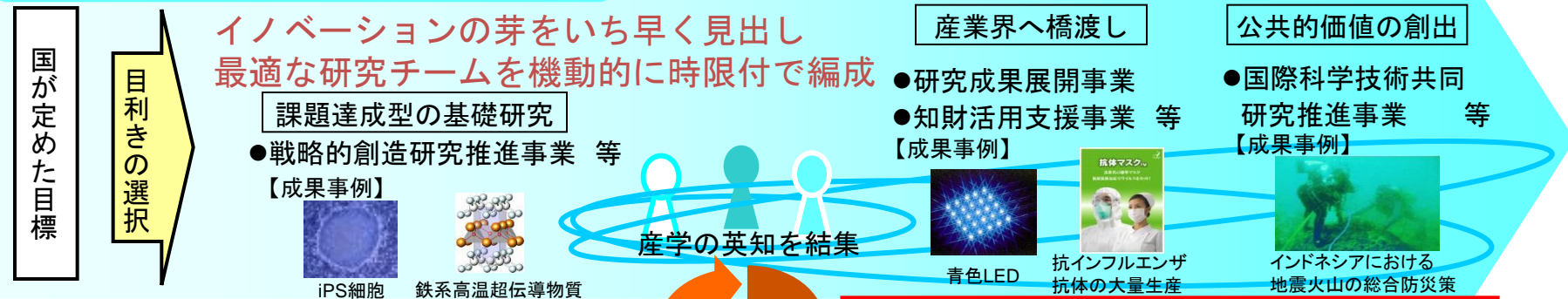
■平成27年度予定額（平成26年度予算額）

運営費交付金	1,010億円（999億円）
うち一般会計	1,006億円（978億円）
うち復興特別会計	5億円（22億円）

※四捨五入の関係で、合計の数字が一致しないことがある。

※平成26年度予算額には、日本医療研究開発機構移行予定分（223億円）を含まない。

科学技術イノベーション創出の推進 ～バーチャル・ネットワーク型研究所～



科学技術イノベーション創出

科学技術イノベーション創出のための 科学技術基盤の形成 ～ソフトインフラの形成機関～

「柔軟性」「専門性」「つなぐ力」

ソフトインフラの質を高め、
科学技術イノベーションの発展に寄与

知識インフラの整備・提供



科学技術情報を提供し、総合的に活用するための基盤整備

人材インフラの整備



- スーパーサイエンスハイスクール支援
- 国際科学技術コンテスト支援
- 研究人材キャリア情報活用支援 等

コミュニケーションインフラの強化



- 日本科学未来館
- サイエンスアゴラ
- 科学とつながるポータルサイト 等